



KSK あまねだより



(頒価 20 円)

発行 神奈川県障害者定期刊行物協会
 222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752
 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3階
 横浜市車椅子の会内

編集 あまね共同作業所
 239-0805 横須賀市舟倉 1-12-1
 TEL 046-835-0723 FAX 046-833-4062
 2019年10月27日 第428号

今年はオリンピック・パラリンピックイヤーですね

明けましておめでとうございます。いよいよ7月から9月にかけて、待望の東京オリンピックとパラリンピックが開催されます。パラリンピックに「ボッチャ」という競技があるのをご存じですか？実はあまねはボッチャの競技用具を2年前に購入し、市内の行政センターの体育室などでゲームを楽しんでいます。

ボッチャを知らない方に、この文面でどのようなものなのかお伝えしきれませんが、ウィキペディアからの引用ですが簡単にご紹介します。ボッチャはヨーロッパが発祥とされ、重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツでパラリンピックの正式記録です。1988年のソウル大会より正式競技として採用されました。日本代表チームは「火の玉 JAPAN」の愛称で、2016年のリオデジャネイロパラリンピックで混合団体は銀メダルを獲得しています。ルールが氷上で行われるカーリングと似ていることから「地上のカーリング」または「床の上のカーリング」とも言われ、全世界で40か国以上に普及しています。

簡単にルールをご説明すると、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、ジャックボールにいかに近づけるかを競います。障害によりボールを投げるができなくても、勾配具(ランプ)を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。競技は個人戦と団体戦があります。

先日、学区内にある大塚台小学校の4年生のクラスの総合学習の一環で、生徒さんたちからボッチャを通じてあまねの仲間たちと交流、絆づくりをしたいと申し入れがあり、あまねのスポーツクラブの11月の活動日に、大塚台小学校を訪問し、体育館で予め学校の先生と生徒さんが床にテープを貼って、作ってくれた2面のコートで、生徒さんと仲間の混合チームを作り、本格的

ボッチャのゲームを楽しみました。当初、仲間たちの中に、大勢の子供たちの声や動きが苦手な人がいるので、全員の仲間を連れて行くのは止めようかと職員の間で意見もあったのですが、「取り合えず全員で行って様子をみよう」ということになりました。しかし、そんな心配もよそに、仲間たち全員が生徒さんと一緒に生き生きとゲームを楽しみ、椅子に座っている時もニコニコと笑顔で観戦している姿を見て、ボッチャの媒体があるにしても、ちょっとした環境の配慮と笑顔があれば、障害と言う垣根を越えて交流が出来るんだなあと感じました。むしろ、障害と言う垣根は支援者側にあるのでは？そんなことを元気いっぱい目を輝かせながらボッチャを仲間と一緒に楽しんでいた大塚台小学校の生徒さんから学ばせていただきました。

年末、4年生のクラス担任の先生があまねにいらっしゃって、生徒さん一人一人から、先日の交流のお礼ともっとあまねの仲間たちと交流(きずな)を深めたいという主旨の熱いメッセージのお手紙をいただきました。ちなみに東京パラリンピックのボッチャ競技は、8月29日から予選が始まる予定です。

(文責 山田)



きょうされん第43回国会請願署名にご協力をお願いします

障害のある人たちがあたりまえに働き、地域の中で安心して、支援をえらべる暮らしを実現するために、障害福祉についての制度の拡充を求める署名・募金活動です。

署名・募金の問い合わせ 046-833-4035
 山田・海原

資源回収ご協力ありがとうございます

11月実施分は
 1. 7496kgでした
 (奨励金は 69,900円)
 次回の日程は別紙にて
 お知らせします。
 問い合わせは9:00以降にお
 願いいたします。

★スケジュール(1月)

- 6日 新年会
- 10日 資源回収 岩戸・池田
- 11日 資源回収 舟倉・若宮台
- 15日 グループ活動
- 17日 生活介護職員会議
- 22日 クラブ活動
- 24日 成人を祝う会
- 25日 法人関係者・父母研修会

★バザーの予定

21日 COOP岩戸店
 10日 通研

【あまねの仲間たち】

- 小島様 ウィンシユ小谷田様 矢澤様
- 佐久間様 鶴若防災様 額狩様
- ヤマヨ久保田様 ダイシン様(順不同)

資源回収の折、バザー用品や寄付などを頂きます。お名前を記せませんが、有効に活用させていただきます。





グループホームの一日



・せせらぎがオープンして9か月が過ぎました・

「こもれび」の利用者の方の高齢化にともない、階段のある舟倉のグループホームから佐原の新しいグループホーム「せせらぎ」に移転し9か月が過ぎました。車椅子でもスムーズに移動できるように、スロープ・エレベーターも完備し、お風呂もトイレも工夫がなされています。

サテライトに移った仲間がいたので、今までの仲間の方に加えて新しい仲間1名が加わりスタートしました。新しい住まいに慣れるまで「半年ほどかかるかな」と思っていたのですが、仲間の方達は思いのほか適応力に富んでいて3か月ほどで通常の生活に馴染んできました。

生活がスタートして数か月経つと、皆で知恵を出し合って作った「せせらぎ」の構造が「こもれび」と比較して使いにくいことが発覚しました。「せせらぎ」はバリアフリーであっても2階建てで、1階と2階と縦の導線が存在します。宿直の部屋も1階にあることもあり、2階の方の見守りは階段を上り確認が必要になります。それに対して「こもれび」は2階にあるものの、構造的には2階にすべての部屋や台所・リビング・トイレ・お風呂・宿直室があり、平面構造であり見通しが非常に良く、仲間の方も外の階段を上りさえすれば、動きがとても良い…改めて「こもれび」の良さを再確認することになりました。ただ、外階段が危険に感じるようになっての移動であったので新たなグループホームが良かったできたことは良かったと思います。

リビングが2階にある「せせらぎ」では、最初はエレベーターを使っていたのですが、仲間の方の様々な事情によって車での送迎対応になると運動不足が顕著となり、足の衰えが見えるようになったため、エレベーターの利用を止め2階にあがるのは階段を利用し気をつけながら使うようにしました。

「家は3回建てないと、理想の家ができない」とどこかで聞いた覚えがあります。グループホーム運営も3か所目、サテライト(グループホームの近くで一人暮らしをしながら支援を受けゆくゆくは一人での生活を目指すもの)の方を含め16名の方が支援を受けながら、地域での暮らしを形作っています。女性の仲間の方が「せせらぎ」に移った後の「こもれび」は男性のグループホームとなり、あまねの仲間の方が2名

他の事業所の方1名、他市のグループホームから移動された方1名、施設から移られた方1名を迎え、ここもまた新たな生活を形作っています。

あまねのグループホームは、週末家に帰る方もいらっしゃいますが、基本365日仲間の方がいる時間帯は、職員を配置し支援にあたっています。

日中活動の場と異なり、支援する時間は長いですが、様々な人間模様を垣間見ることができ、ハッとすることがあり学ぶことも多くあります。

また、住まう環境の大切さはサテライトに移行した仲間の方から学びました。落ち着き自信をもって生活している仲間の姿は、グループホーム利用当初は考えられないことでした。

仲間の変化を受け入れること、仲間の力を信じること…このことが大切だと実感しています。生活が長くなる中で、また違った課題が生じてくると思いますが、目を背けず、工夫をしながら乗り越えていきたいと思えます。これからも地域の方々に理解を求め、誰でもが当り前に生活をする事ができることを目指していきたいと思えます。
(宮野・海原 記)



**静岡県牧之原産やぶきた
深蒸し茶を販売しています**

200g 1000円

ご注文は作業所まで

046-835-0723

**ふきん販売に
ご協力ください**

布地8枚重ね 3枚組

660円

ご注文は作業所まで
046-835-0723